

FAQ：ロシア及びベラルーシからの木材は「紛争木材」第3弾

(2022年4月8日版)

第2弾からの変更及び追加：

「取り扱い」の実施に関する質問 12、13、14、15 および一般的な質問 6 を追加
(なお、「解釈」を「取り扱い」に修正:訳者注)

紛争木材とする「取り扱い」の実施について

1. 本「取り扱い」はいつから有効か？

本「取り扱い」は、第11回緊急特別会合の国連総会決議 A / ES-11 / L.1 (2022年3月2日)「ウクライナに対する侵攻」の投票の結果が判明した日時である2022年3月2日米国東部標準時午前11:55から有効とする。

2. 企業は実際この「取り扱い」をどのように実施したらよいのか？

2022年3月2日米国東部標準時午前11時55分以降に PEFC の DDS が適用されたロシアとベラルーシを起源とする原料は、「紛争木材」と見なされ、問題のある出処となる。したがって、PEFC の COC において PEFC 認証材または PEFC 管理材のいずれにおいても使用することはできない。

3. 2022年3月2日以前のロシアとベラルーシを起源とする木材はどうか？

2022年3月2日米国東部標準時間11:55以前に PEFC の DDS が適用され、その結果「極小リスク」とされたロシアとベラルーシを起源とする原料は使用可能であり、市場に出荷可能である。

例：

- ・期限前に DDS が適用され、期限後に森林から製材所に輸送されたロシアまたはベラルーシの木材については、PEFC 主張が可能である。
- ・ロシアまたはベラルーシからの木材で、この2か国、あるいはこれらの国以外で保管されているもので、DDS が適用されていないものについては、「紛争木材」と見なされ、使用できない。

4. 「紛争木材」は、木材だけに適用されるのか、それとも他の森林外樹木産品にも適用されるのか？

この「取り扱い」は、すべての森林および森林外樹木産品の原材料と製品に適用される。簡潔にするために、この FOQ では「木材」と言及しているが、「森林および森林外樹木産品」のことである。

5. この「取り扱い」は、ロシアとベラルーシの PEFC 認証森林を起源とする木材にのみ適用されるのか？ 非認証森林から生産される木材、他の森林認証制度により認証された木材はどうか？

この「取り扱い」は、ロシアおよびベラルーシを起源とするすべての木材（PEFC 認証森林、他の認証制度により認証された森林、および非認証森林）に適用される。

6. 本「取り扱い」は、PEFC 認証原材料と PEFC 管理材原材料の両方に適用されるのか？

この「取り扱い」は、PEFC の COC 過程に入るすべての原材料に適用されるため、PEFC 認証原材料と管理材原材料の両方が対象となる。

7. 2022 年 3 月 2 日以前に入荷したものは、自動的に「紛争木材」ではないと見なされるか？

いいえ。2022 年 3 月 2 日より前に DDS が適用され、リスクが極小レベルのもののみが「紛争木材ではない」と見なされる。

8. A 社がロシア/ベラルーシの森林を起源とする原材料を購入し、3 月 1 日に DDS を実施し、4 月 5 日に DDS を実施する B 社に販売する場合、この「取り扱い」はどのように適用されるのか？

(1) A 社が 2022 年 3 月 2 日以前に DDS を適用し、その結果極小リスクの場合、「紛争木材」には当たらない。

(2) B 社が 2022 年 3 月 2 日以降に DDS を実施したとしても、A 社が 2022 年 3 月 2 日以前に最初の DDS を実施し、極小リスクとの結果得ているので、「紛争木材」にはならない。

9. DDS が 2022 年 3 月 2 日以前に適用されている場合、ロシアまたはベラルーシの森林を起源とする原材料を利用し蓄積された PEFC クレジットを新たな PEFC 製品の生産に利

用することは可能か？

はい。2022年3月2日以前に DDS が適用され、極小リスクの場合、PEFC クレジットとして引き続き利用可能である。

10. すでに生産済みの PEFC ラベルの付き製品は引き続き販売可能か？

PEFC-COC 要求事項によると、企業は製品にラベルを付す前に、その製品に含まれる材料が「問題のある出処」からのものでないことを確認するための DDS を実施する必要がある。したがって、2022年3月2日までに DDS が実施され、極小リスクの結果を得た PEFC ラベル付きの製品は、引き続き販売可能である。

11. この「取り扱い」は、PEFC COC ST 2002：2020 と PEFC COC ST 2002：2013 の両方に適用されるのか？

この「取り扱い」は、PEFC Chain of Custody ST 2002：2020 および PEFC Chain of Custody ST 2002：2013 のいずれかの認証を取得している企業に適用される。

12. ロシアの企業がロシア国内市場用にロシア産木材を調達する場合、本「取り扱い」は適用されるのか？

はい、紛争木材の「取り扱い」が適用される。ロシアとベラルーシの森林を起源とする原材料は、紛争木材と見なされ、ロシアまたはベラルーシから輸出されるか国内で使用されるかどうかに関係なく、PEFC の主張を付し市場に出すこともできないし、PEFC の COC に含めることはできない。

13. ウクライナ産の木材は、「紛争木材」と見なされるのか？

国連総会によるウクライナ侵攻に関する決議に基くと、ウクライナ政府によって管理されている地域を起源とする木材は、PEFC による本「取り扱い」の対象には含まれない。ウクライナ政府によって管理されている地域からの木材で、PEFC DDS が適用され、「極小リスク」とされたものについては、使用可能であり、市場に出すことも可能である。しかしながら、ロシアの占領下にあるウクライナの領土を起源とする木材は、「紛争木材」と見なされる。

14. PEFC 認証取得企業はどのように本「取り扱い」を実施したらよいか？

第 11 回緊急特別会合における国連総会決議 A / ES-11 / L.1 (2022 年 3 月 2 日)「ウクライナに対する侵略」同様、PEFC 理事会の本「取り扱い」の決定は、根拠ある懸念に基づくものである。

PEFC ST 2002 : 2020 に基づく認証を取得している企業は、ロシアとベラルーシを起源とする供給を「重大なリスク」があるものとして、DDS がいつ適用されたかを確実に判断できるようにする必要がある。ロシアとベラルーシを起源とする原材料の DDS の適用が 2022 年 3 月 2 日以降の場合、紛争木材の懸念は解消できず、PEFC ST 2002 : 2020 付属書 1 4 および 5 に従って管理する必要がある。

PEFC ST2002 : 2013 に基づき認証を取得している企業については、2022 年 3 月 2 日以降に DDS が適用された場合、5.7 項が適用される。

15. DDS が実施された時期について、サプライヤーからどのような証拠を入手したらよいか？

2022 年 3 月 2 日以前に DDS を実施したこと確約する、PEFC 認証取得サプライヤーからの署名された宣言およびその会社の CoC 管理部門からの、供給された原材料が「極小リスク」に分類されることについて十分な証拠を付した DDS の実施に関する文書

一般的な質問

1. ロシアのウクライナ侵攻に対する PEFC の対応如何？

ロシアとベラルーシを起源とするすべての木材は「紛争木材」であるため、PEFC 認証製品には使用できないとしたところ。これは、占領下のウクライナの領土を起源とするすべての木材にも適用される。PEFC は引き続き状況を監視し、必要に応じて追加の措置を検討する。

2. ロシアとベラルーシの木材に関する PEFC の「取り扱い」の理論的根拠は何か？

ロシアとベラルーシの木材が「紛争木材」に分類されるという「取り扱い」は、PEFC の COC 認証の完全性を保護するために、第 11 回緊急特別セッション中の国連総会決議 A / ES-11 / L.1 (2022 年 3 月 2 日)「ウクライナに対する侵攻」に基づいている。これは、PEFC に対する利害関係者からの要求を踏まえ、市場における取扱の明確化を行

うため、PEFC メンバーと緊密に協議のもとなされものである。

3. PEFC は紛争材をどのように定義しているのか？

PEFC は、PEFC ST 2002 の枠組みの中で、「紛争木材」を次のように定義している。「COC のいずれかの時点で、武装集団（反乱軍であるか通常兵士であるかを問わない）、ある いは、武力紛争に関与する文民政権またはその代表者によって取引された木材であり、その目的が紛争の永続化または個人的な利益のために紛争状態を利用することにある場合。（・・・）紛争木材は必ずしも「違法」であるとは限らない。」木材採取自体が紛争の直接の原因になっていることがある。

4. PEFC は国連総会による将来の決議をどのように扱うのか？

PEFC は、国連総会の緊急会合で採択される将来の決議に対しても同様の対応を行う。

5. PEFC は、ウクライナで影響を受けた同僚をどのようにサポートしているのか？

PEFC は、PEFC ウクライナの同僚と継続的に連絡を取り合っており、うれしいことに彼らは今のところ安全でいる。PEFC としては、この前例のない状況で必要な支援と援助を提供する用意をしている。

6. ロシア、ベラルーシ、ウクライナに関して PEFC と FSC が採用したアプローチの違いは何か？

実質上、同様な対応を意味している。つまり、ロシアとベラルーシからの FSC/PEFC 原材料は世界の市場で入手できないということである。ウクライナの侵略/占領地域からの原材料も同様である。このことを実現するため PEFC は、ロシア、ベラルーシ、およびウクライナの占領地域を起源とする原材料は「紛争木材」とし、PEFC 認証材及び PEFC 管理材として、PEFC-COC において使用できないことを明確にした。一方 FSC は、ロシアとウクライナの侵略地域における認証を一時停止とし、ベラルーシでの認証を終了した。

ロシアとベラルーシにおける PEFC 認証林と認証企業

1. ロシアとベラルーシの PEFC 認証森林面積はどのくらいか？

2021 年 12 月 31 日の時点で、ロシアの 31,976,108 ヘクタールの森林とベラルーシの 9,022,400 ヘクタールの森林が PEFC 認証を受けています。これは、世界の PEFC 認証面積 328,464,110 ヘクタールの 12.5%に相当する。

2. ロシアとベラルーシで PEFC 認証を取得している企業はいくつあるか？

2021 年 12 月 31 日の時点で、ロシアの 104 社とベラルーシの 110 社が PEFC の COC 認証を受けている。これは、世界の PEFC COC 認証企業全体 12,671 の 1.7%に相当する。

さらに詳しい情報

ご不明な点がある場合や詳細情報が必要な場合は、conflict-timber@pefc.org までご連絡ください。

(SGEC/PEFC ジャパン 梶谷仮訳 2022.4.13)

FAQ: Timber from Russia and Belarus considered 'conflict timber'

Following the announcement that all timber originating from Russia and Belarus is 'conflict timber', we have received several questions and requests for further clarification.

You can find answers to all questions we have been asked on this page. We will continue to update this page as we receive more questions. If you have a question that is not answered on this page, please contact us at conflict-timber@pefc.org.

Modifications:

- *8 April 2022: Moved General Questions 3) to Implementation Questions ("Is timber originating from the Ukraine considered 'conflict timber'?"*)
- *8 April 2022: Added Implementation Questions 14) and 15) and General Questions 6)*

Implementation questions

1. When does the clarification take effect?

The clarification is effective as of the date and time the results of the vote of the UN General Assembly Resolution A/ES-11/L.1 (2 March 2022) "Aggression against Ukraine" during the 11th Emergency Special Session 2 March 2022, 11:55 am EST.

2. How do companies implement this clarification in practice?

Material originating in Russia and Belarus for which a PEFC DDS was applied after 2 March 2022, 11:55 am EST is considered conflict timber, therefore controversial, and cannot be used in the PEFC chain of custody, neither as PEFC certified nor as PEFC controlled sources.

3. What about timber originating from Russia and Belarus before 2 March 2022?

Material originating in Russia and Belarus for which a PEFC DDS was applied before this 2 March 2022 11:55 EST and for which the DDS resulted in negligible risk can be used and be placed on the market.

Examples:

- *Timber originating from Russia or Belarus for which a DDS was applied before the deadline and is transported from the forest to a sawmill after the deadline can be used with a PEFC claim.*
- *Timber originating from Russia or Belarus which is already in storage, potentially even outside of the two countries, but no PEFC DDS has been applied, is considered as ‘conflict timber’ and cannot be used.*

4. Does ‘conflict timber’ only apply to timber or also to other forest-based products?

The categorisation applies to all forest and tree-based material and products. For ease of reading, this document refers to ‘timber’, but this shall be understood as ‘forest and tree-based products’.

5. Does the clarification only apply to timber originating from PEFC-certified forests in Russia and Belarus? What about timber originating from uncertified forests or timber certified by other forest certification systems?

The clarification applies to all timber originating from Russia and Belarus (PEFC certified forests, forests certified by other certification systems, and uncertified forests).

6. Does the clarification apply to PEFC-certified material as well as to PEFC controlled sources?

The clarification applies to any material entering a PEFC chain of custody and therefore includes both PEFC-certified material as well as controlled sources.

7. Are all deliveries received before 2 March 2022 automatically considered as NO conflict timber?

No. Only deliveries for which the DDS was applied and resulted in negligible risk before the 2nd March 2022 are considered ‘no conflict timber’.

8. Company A buys material originating from a Russian/Belarusian forest and conducts DDS on the 1st March. It sells the material to Company B, which conducts the DDS on the 5th of April? How does the clarification apply in this scenario?

- If company A applied the DDS before the 2 March 2022 resulting in negligible risk, the clarification does not apply.
- Although company B conducts the DDS after 2 March 2022, the clarification does not apply to Company B if a first DDS was conducted to the material by company A before 2 March 2022 and resulted in negligible risk.

9. **Is it possible to use PEFC credits accumulated through material originating from forests in Russia or Belarus for producing new PEFC products if the DDS was applied before 2 March 2022?**

Yes. PEFC credits from material for which a PEFC DDS was applied before 2 March 2022 and the DDS resulted in negligible risk can still be used.

10. **Can already produced and PEFC labelled products still be sold?**

According to PEFC Chain of custody requirements, before labelling a product, companies shall conduct due diligence to make sure that any material included in the labelled product does not come from controversial sources. PEFC labelled products to which due diligence was implemented and resulted in negligible risk before the 2nd March 2022, can still be sold.

11. **Does the clarification apply to both PEFC Chain of Custody ST 2002:2020 and PEFC Chain of Custody ST 2002:2013?**

Yes. The clarification applies to companies certified to apply to either PEFC Chain of Custody ST 2002:2020 and PEFC Chain of Custody ST 2002:2013.

12. **If Russian companies source timber from Russia for internal market purposes, does the conflict timber clarification apply?**

Yes, the conflict timber clarification applies. Material originating from forests in Russia and Belarus is considered conflict timber and cannot be placed on the market under a PEFC claim nor can it enter the PEFC chain of custody, regardless of whether it is to be exported or used within Russia or Belarus.

13. **Is timber originating from the Ukraine considered 'conflict timber'?**

Based on the Resolution on Aggression against Ukraine by the United Nations General Assembly, timber originating from territories controlled by the elected Ukrainian government is not included in the clarification by PEFC. Timber from the territories controlled by the elected Ukrainian government for which a PEFC DDS was applied and the DDS resulted in negligible risk can be used and be placed on the market.

Timber originating from occupied Ukrainian territory is considered 'conflict timber.

14. **How shall PEFC certified companies implement the clarification?**

The clarification from the PEFC Board, as well as the UN General Assembly Resolution A/ES-11/L.1 (2 March 2022) "Aggression against Ukraine" during the 11th Emergency Special Session are to be considered substantiated concerns.

Companies implementing PEFC ST 2002:2020 are required to identify

supplies originating from Russia and Belarus as having “significant risk” to ensure that they can determine when the DDS was applied. If the DDS for material originating from Russia and Belarus was applied after 2 March 2022, concerns cannot be resolved and it needs to be managed in accordance with PEFC ST 2002:2020 Appendix 1 clause 4 and 5.

Companies implementing PEFC ST 2002:2013 for which the DDS was applied after 2 March 2022, clause 5.7 applies.

15. What evidence can be accepted from the suppliers on when the DDS was conducted?

Signed declaration from the PEFC certified supplier where the supplier declares having conducted the DDS prior to the 2nd of March 2022, together with documentation demonstrating the DDS conduction from the company’s chain of custody management system that provides sufficient evidence to the organisation to classify the supply as having negligible risk

General questions

1. What is PEFC’s response to the aggression against Ukraine?

All timber originating from Russia and Belarus is ‘conflict timber’ and therefore cannot be used in PEFC-certified products. This also applies to all timber originating from occupied Ukrainian territory. PEFC continues to monitor the situation and will consider additional measures as necessary.

2. What is the rationale behind PEFC’s clarification concerning timber from Russia and Belarus?

The clarification that timber from Russia and Belarus is to be categorised as ‘conflict timber’ is based on the UN General Assembly Resolution A/ES-11/L.1 (2 March 2022) “Aggression against Ukraine” during the 11th Emergency Special Session, to safeguard the integrity of PEFC chain of custody certification.

It follows requests by stakeholders for PEFC to provide clarification for the marketplace and was undertaken in close consultation with PEFC members.

3. How does PEFC define conflict timber?

PEFC defines conflict timber in its regulatory framework in PEFC ST 2002 as “Timber that has been traded at some point in the chain of custody by armed groups, be they rebel factions or regular soldiers, or by a civilian administration involved in armed conflict or its representatives, either to perpetuate conflict or take advantage of conflict situations for personal gain.

(...) Conflict timber is not necessarily illegal.” The exploitation of timber may itself be a direct cause of conflict.

4. How will PEFC consider future resolutions by the UN General Assembly?

PEFC will provide consistent clarification for future resolutions adopted by United Nations General Assembly emergency sessions.

5. How is PEFC supporting its affected colleagues in Ukraine?

PEFC is in ongoing contact with our colleagues at PEFC Ukraine and we are glad to report that they are safe for now. We have offered and are prepared to provide them with any support and assistance needed in this unprecedented situation.

6. What is the difference between the approaches that PEFC/FSC has taken with regards to Russia, Belarus, Ukraine?

In practice it means the same i.e. no FSC/PEFC material from Russia and Belarus is available on the global market, similarly to material coming from invaded/occupied areas of Ukraine. To achieve that result, PEFC has clarified that material originating from Russia, Belarus and occupied areas of Ukraine is considered ‘conflict timber’ and therefore cannot be used in the PEFC chain of custody, neither as PEFC certified nor as PEFC controlled sources, while FSC has suspended certificates in Russia and in the invaded areas of Ukraine and terminated the certificates in Belarus.

Questions about PEFC-certified areas and companies in Russia and Belarus

1. How large is the PEFC-certified forest area in Russia and Belarus?

As of 31 December 2021, 31,976,108 hectares of forest in Russia and 9,022,400 hectares of forest in Belarus were PEFC certified. This corresponds to 12.5% of the total global PEFC-certified area of 328,464,110 hectares.

2. How many companies are PEFC certified in Russia and Belarus?

As of 31 December 2021, 104 companies in Russia and 110 companies in Belarus were PEFC chain of custody certified. This corresponds to 1.7% of all 12,671 PEFC chain of custody certified companies globally